

自然のなかで学び輝く子どもたち フリースクール千の葉学園を訪ねて

<体で、知力と想像力を育む「オイリュトミー」>

房総半島の南東部、長南町役場の隣に千の葉学園があります。

私たちは、まず低学年の「オイリュトミー」授業の見学をしました。先生の静かな言葉と体の動きに合わせて無心に動く子どもたち。右足と左足の間違いを先生がそれとなく指導すると、気づいて直す子どもの姿が微笑ましく、これまで見たことのない「集中力」と「気づき」の教育がとても新鮮に映りました。



「美しいリズム」を意味するオイリュトミー(Eurythmy)は、声や音楽を体で表現しながら「体力」「知力」「想像力」を育てるためにドイツの教育者シュタイナーが考案した教育方法です。2・3年生6人のオイリュトミーはピアノ伴奏とともに先生から「物語」が語られ、より高度な体の動きとグループの運動が求められます。「わたしとあなた、あなたとわたし、そしてわたしたち」という言葉が繰り返され、子どもたちは体を動かしながら、「自己」と「他者」、そして「仲間」を自然に意識するよう体で学んでいるようでした。

シュタイナー教育を「説明」ではなく、オイリュトミーの見学から始められたのは幸運でした。千の葉学園は、理屈より体で学ぶ体験学習を重視、自分で考え楽しみながら仲間とともに学ぶ、子どもの尊厳を中心にした教育をめざしています。

<理科の授業で見た知への関心>



高学年はマグマからできる「火成岩」の勉強中でした。私たちが教室に入ると、6・7年生の6人の子どもたちが笑顔で迎えてくれました。黒板には岩ができる仕組みが書かれています。先生がいくつかの小さな岩を取り出し、ハンマーで砕くことを提案すると、子どもたちは歓声をあげて、さっそく岩を布で包んで叩きはじめました。砕けた岩の中は透き通るような白さで、興味深げに拡大鏡でのぞきこみ、見学者の私たちにも見るようすすめる子もいました。

岩を砕いたことで子どもたちの想像の世界はどれほど広がったことでしょうか。好奇心と会話が弾む授業に驚いていると、子どもたちは砕いた岩をスケッチするためにクレヨンを机の上に広げ始めました。算数や理科が苦手だった私は、こんな授業を受けていたら、ひょっとして「理系男子」になっていたかも知れないと少し羨ましく感じられました。

机は円形に並べた「対話型」、全員が向き合って話しができるように配置されています。教室の壁側には個性的な工作作品が並び、楽しく作っている光景が目につかぶようでした。



<期待される千の葉学園>

学園の前身は2007年から始まりましたが、「千の葉学園」として開校したのは2015年です。小学生と中学生を対象とする全日制で、現在生徒は22名、民家を買収した校舎に5つの教室、裏庭は町からの借地、専任の先生が4名という規模で、子どもたちは横芝光町、蘇我、御宿、大網などから通っているそうです。学校法人ではないため正式な学籍は地域の在籍校にありますが、近年はフリースクールに対する社会的理解が進み、学習実績が認められているようで中学卒業ができます。高校進学は本人の努力次第であることは、普通の中学生と同じです。

千の葉学園の運営はすべて保護者の負担と外部からの寄付金で賄われているため、財政的な苦勞は想像以上のものがあるようです。今回の「エコロ福祉助成」は校舎の整備の一環としてトイレの新設工事にあてられます。千の葉学園への支援の輪が広がれば、親も安心して子どもたちを学校に通わせることができ、さらに多くの子どもが利用できるようになるはずです。生き生きと個性を育てる学校への期待を込めた私の感想です。

ライターチーム 小原 紘